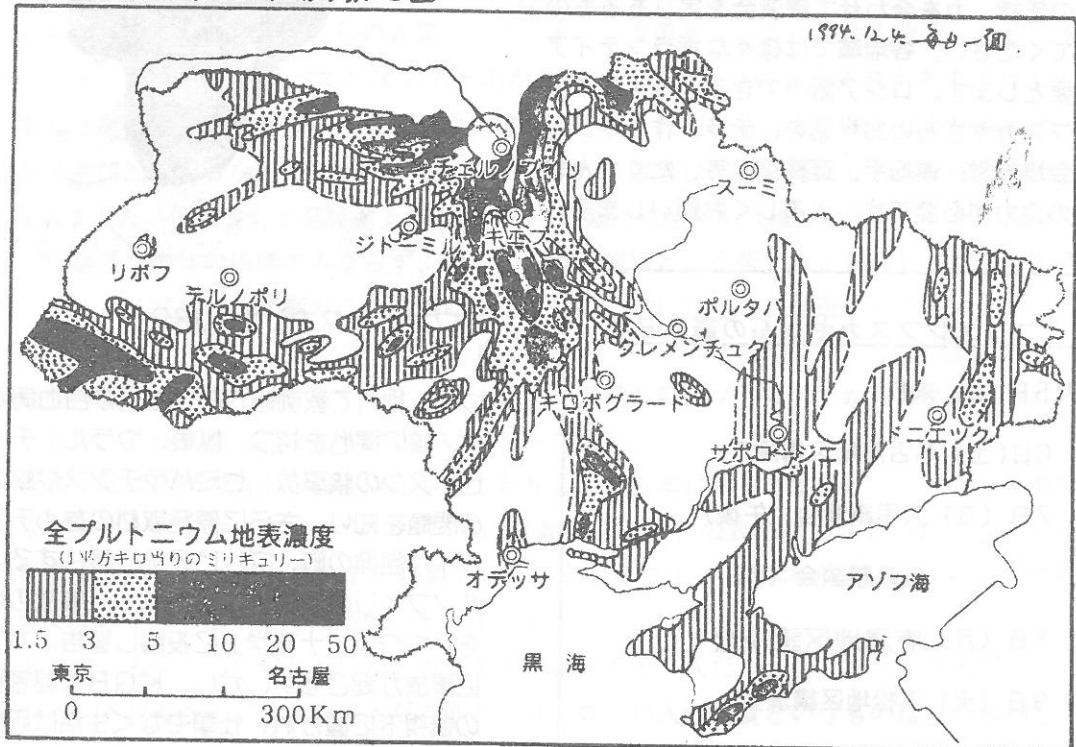




● ウクライナのプルトニウム汚染地図



チェルノブイリ原発 プルトニウム汚染 実態判明

《事務局》〒466 名古屋市昭和区楽園町137-1-10

チェルノブイリ救援・中部 代表：渡辺春夫

【郵便振替】00880-7-108610 (旧番号 名古屋8-108610も可)

☎FAX:052-836-1073 (月・水・金・10:30~15:30)

(問い合わせは、お名前とシールの番号を明記し、返信用切手を同封の上、なるべく郵便でお願いします。)

ルボフィ・コヴァレフスカヤさん

今年はチェルノブイリ事故10周年です。チェルノブイリ救援・中部ではこれを記念し、ウクライナのジャーナリスト、R、コバレフスカヤさんをお迎えして講演会を各地で行うことになりました。講演会日程は下記のとおりです。各地の皆様、力を合わせて講演会を実りあるものにして下さい。各地域では様々なボランティアを必要とします。ロシア語のできる方は通訳やコバレフスカヤさんのお世話を、チラシ作りや、受付、会場設営、運転手、連絡係り等、たくさんの方々の協力が必要です。よろしくお祈りします。



R・コヴァレフスカヤさんの講演日程

4月5日(金) 来日

6日(土) 名古屋地区講演会

7日(日) 大垣講演会(午後)

岐阜懇談会(夜)

8日(月) 東濃地区講演会

9日(火) 浜松地区講演会

10日(水) 豊橋地区講演会

11日(木) 静岡県岡部町講演会

12日(金) 休み

13日(土) 長野地区講演会

14日(日) 伊那地区講演会

15日(月) 広島訪問

16日(火) 広島

17日(水) 帰国

コヴァレフスカヤさん紹介

ウラル地方で教師時代に、生徒が白血病で死亡し、核に関心を持つ。以後、ウラル・チャリアピンスクの核事故、セミバラチンスク核実験場の問題を知り、さらに原発取材のためチェルノブイリ原発の町、プリピャチに移住する。チェルノブイリの手抜き工事を知り、事故の危険性を「ウクライナ文学」に投稿し警告。1ヵ月後に事故が起こる。しかし、KGB(秘密警察)の監視下に置かれ、仕事もなく生活は困窮。

外国で記事を発表し、1991年、アメリカで女性ジャーナリストに贈られる「ジャーナリスト敢闘賞」を受賞。アメリカでチェルノブイリの惨禍を報告。1995年4月に「チェルノブイリ内部資料」を出版。42才。

被爆国日本での講演に期待している。来日前はグリーンピースに招かれ、ヨーロッパ各地で講演旅行の予定。

1995年12月25日

ウクライナ、キエフ市

拝啓 渡辺春夫様

日本にお招きいただき、また個人的にもお手紙をいただきましたことを感謝申し上げます。

原子力エネルギーに関しての私達の信条が一致しましたことをうれしく思います。あなたの団体の高潔な活動は人道主義の証であるばかりでなく、高邁な道徳的見地の現れでもあるでしょう。私はロシアで日本国民と広島、長崎の原爆投下の被災者への敬意を教えられて育ちました。

まさにこの原爆の悲劇が、私の人間として、そして文筆家としての運命を決定したのです。そして既に15年、私はすべての国の人々のため憂いを感じて心の安まる時がありません。既に膨大な量の核兵器が蓄積され、原子力発電所が建設されている以上、我々はみなこの狂った世界の潜在的被害者なのです。チェルノブイリの惨事は、何百万人もの人々の生命を危険に陥れました。国は貧しく発展途上の状態にあり、政府は基本的人権を無視している状況下で、彼らは緩慢な肉体の崩壊のみならず、魂の、人格の崩壊という苦しみを背負わされているのです。チェルノブイリの悲劇のこの側面については、一般に語る事が避けられています。

私は、あなた方のお役にたてますようお願いしています。といいますのは、この悲劇を10年にわたり調査しているだけでなく、チェルノブイリ原発の町、プリピャチから疎開させられるという形で、それを個人的にも体験しているからです。

近来、私は世界各国からの招待を受けております。日本に参ります前に、ヨーロッパ諸国を回る予定があります。ですから、2月から3月始めまでに、公式の招待状をいただき、ビザの手続きすませることが出来るようお願いしたいと思います。ヨーロッパからは4月1日に戻る予定ですので、それからでは時間がありませんから。

そして、もうひとつ申し上げたいのですが、私はドイツ人だろうと、フランス人だろうと、スペイン人だろうと、イタリア人だろうと、ヨーロッパ人の気質というものは良く承知しております。ですが、日本人の気質につきましては全く存じておりません。日本の方々との出会いが有益なばかりでなく、興味深いものとなり、知性ばかりでなく心にも触れるものとなりますように、日本人の関心が何に向けられているか、特にチェルノブイリの問題において、さらに詳しくお教えいただければ大変有り難く存じます。もちろん、もしご面倒でなければ、ということ。私の方でも、あらかじめ本で日本につき調べておくように致します。

私に目をとめていただいた事をもう一度感謝申し上げます。新年にあたり、ご成功とご健康、お幸せをお祈り申し上げます。

敬具

リュボーフィ・コバレフスカヤ

高速増殖炉「もんじゅ」事故に抗議し、廃炉・閉鎖をもとめる意見書

1995年12月17日

チェルノブイリ救援・中部

12月8日に起こった高速増殖炉「もんじゅ」事故に、私達は大きな衝撃を受けました。「もんじゅ」は世界中の国々が開発を断念し、今や積極推進は日本だけという状況の中で、科学技術庁や動力炉核燃料開発事業団（以下、動燃）が多くの人々の反対と懸念を押し切り完成させたのです。「もんじゅ」は当初からナトリウムを使う危険性と暴走の危険性が指摘されたにもかかわらず、動燃や推進派の学者、科学技術庁が「絶対安全」を掲げてきました。にもかかわらず、世界最大の配管ナトリウム漏れを起こしました。ドイツやフランスを初め、海外の多くの高速増殖炉がいずれもナトリウム漏れやナトリウム火災を克服出来ずにこれまで開発を諦めています。これは起こるべくして起こった事故です。世界の失敗の経験に耳を貸さず、自惚れと自己過信のもとらした事故です。

私達が住む名古屋、岐阜、三重、静岡、長野など東海・中部地方は「もんじゅ」の風下です。万一放射能漏れが起これば、23時間以内に私達は大きな危険にさらされます。私達はチェルノブイリ原発事故被災者の救援を続けて来た立場から、どのような理由があろうと大事故が二度と起こってはならないことを訴えます。「もんじゅ」と私達はたった100 Kmしか離れていません。チェルノブイリ原発事故では、200-300 Kmの遠く離れた村々が被災地となり、事故から10年目を迎える現在、癌や白血病をはじめ様々な病気が増加して、人々の未来を奪い不安に陥れている事を私達は知っています。強い発癌性を持ち、半減期が24000年もあるプルトニウムを燃やす「もんじゅ」が大事故を起こせばどのような事態になるか想像も出来ません。この狭い日本でチェルノブイリの様な事故が起これば、私達が避難する場所はどこにもありません。

「もんじゅ」がこれまでの原発とはちがいが技術的にも格段に難しく、経済的にも不合理なことは明かです。日本が資源小国だから、という開発目標も今では色褪せたものになっています。その上、純度の高いプルトニウムを作る「もんじゅ」の運転は世界から日本が核武装をするのではないかと、との疑惑をさえ生んでいます。こうした現実を考え、私達は日本政府が、プルトニウム利用政策を再検討し、「もんじゅ」の運転再開を断念し、廃炉とすることを求めます。

代表 渡辺春夫

この意見書を科学技術庁長官と動燃理事長、もんじゅ建設所長宛先に郵送しました。

放射線測定器

会員に頒布します

輸入しました

- ▲ 日本でも原発事故が起こったら ?
- ▲ 台湾のような放射能汚染ヒルは日本にはないの ?
- ▲ 病院で放射能を点滴する検査を受けただけで、どの程度の被爆かな ?
- ▲ しょっちゅう飛行機に乗るけど、宇宙線は大丈夫かな ?
- ▲ チタン精練工場が近くにあるけど産業廃棄物の放射能は ?
- ▲ 古い火災報知機は放射能を使ってあるというけど本当かな ?

- こんな時に役に立ちます。
小型で高性能のポケットブル放射線測定器です。

- 2種類あります

(1) シンテック (СИНТЭК) : 検出部はガイガー計数管

放射線に感ずるとピ・ピ・ピと音が出ます。

結果はデジタル表示。

国際的な標準被曝線量 (マイクロシーベルト/時) で表示します。

広い測定範囲 : 0.01 — 999 マイクロシーベルト/時 (測定レンジ3段切替)

により環境放射能から原発内部などの強い放射線環境でも使えます。

□サイズ : 14.4×6.2×3 cm

□重さ : 220g

□電源 : 単3乾電池3本

(2) マスター1 (Мастер-1) : 検出部はガイガー計数管

胸ポケットに入る超小型放射線測定器、音は出ません。

結果はデジタル表示。

測定範囲 : 0.01 — 9.99 マイクロシーベルト/時。

□サイズ : 6×14.2×1.7 cm

□重さ : 90g

□電源 : ボタン電池 (LR43 4本)

(注) どちらも食品の測定には使えません。

-
- 全部チェックの上、新しい電池を入れてお渡します。
 - 1台 10000 円 (送料別)。
 - チェルノブイリ救援・中部事務局 (TEL, FAX 052-836-1073) までお申し込み下さい。

《あなたもスタディツアーに参加しませんか まだまだ、間に合います・・・第二次募集中》

チェルノブイリ原発事故から10年目の、新しい年が始まりました。私たちが、6年間にわたって続けてきた救援活動も、大きな節目を迎えようとしています。

昨年末から、参加を呼びかけてきたスタディ・ツアーの企画も、14名（主婦あり、学生あり、会社員あり、看護婦さんあり）の参加により、予定通りスタートしました。

プレ企画（勉強会）の第一回は、「スタディ・ツアー」の企画説明や、「チェルノブイリ救援・中部」の活動が、パネルなどを使って紹介されました。第2回では、名古屋大学の河田さんから、チェルノブイリ原発事故の詳しいお話を聞くことができました。3回目からは、いよいよ「ロシア語会話」の講座も始まります。何と「ロシア語のアルファベットを全部暗記してくること」と言う宿題が出ました。楽しみですが、頭の痛くなる企画でもあります。

さて、勉強会に参加しながら早くも、全員の心はウクライナへとんでいます。

「被災地の子どもたちは、元気に暮らしているのでしょうか？」

「私たちの贈った医薬品や医療機器は、立派に活躍しているのでしょうか？」

「何より『悲惨な事故を二度と繰り返さないように』という私たちの願いは、実現に向かって大きく前進しているのでしょうか？」…不安と期待が胸をよぎります。

現地でも、10周年にむけての記念式典や、私たちの受け入れ体制の準備が着々と進められていると聞きます。

このツアーは、遠くは台湾の市民団体を含む、様々な方面から注目を集め始めています。新聞記者の同行も実現しそうです。私たちは、さらに多くの参加者を得て、もうひとまわり大きなイベントにしたいと考えています。

一人でも多くの方と一緒に現地を訪れることができると願っています。

あなたの決断を、そして参加を心からお待ちしています。

1996. 4. 19(金)~4. 29(月)の11日間

費用 248,000円（お一人）

申し込みは、2月29日（木）までに事務局まで。

スタッフ 神野



緊急のお願い!!

現地の男児
悪性腫瘍に

『抗がん剤の資金援助を』

同事務局

メンバーで、現在、キエフに滞在中の竹内高明さん(三巴)が、現地の知人である日本語教師ユリー・シェフチェンコさん(ウズの息子セルゲイ君)の悪性腫瘍(しゅよう)の治療に必要な抗がん剤の資金援助を訴えている。

セルゲイ君のケースは、放射能との因果関係は不明だが、事故後、キエフではがんの発生率が激増した事実もある。腫瘍は後腹膜にも転移しており、助かる見込みは六〇%。睾丸の腫瘍は今月上旬切除。転移部の方は二月から抗がん剤投与を始めて様子を見ながら手術するか決める。

葉はすでに同事務局が、二十八万円立て替えの形で

1996.1.26 中田

(うち十五万円は山口県宇都市の市民団体からの援助金)で要請のあった「プレオマイシン」四十アンブルを調達済み。日本人の商社社員に託して、二十七日にはキエフに届けられる予定。

救済金は、郵便振替で「チェルノブイリ救済・中野」(口座番号008800171108610、通帳

欄に「セルゲイ君支援金」と書く。

95 ハート to ハート キャンペーン

ご協力ありがとうございました

昨年10月から12月にかけて行われた<95ハート to ハート キャンペーン>に、19都道府県のたくさんの人々が応えてくださり、1082通の心のこもったメッセージが届きました。キャンペーンをはじめてしばらくは、カードがあまり届かず、「チェルノブイリ」への関心の風化を心配しましたが、その後の新聞報道によって問い合わせが相次ぎ、事務局としてもホットしました。

メッセージカードには、「遠い子ども達のことを話ながら出来上がりました」「3年生が心をこめてカードを作りました。子ども達が生まれた年に事故があったことを知り深く印象に残ったようです」「この活動を世間に広めて、チェルノブイリのあの悲惨な事故が風化されないように頑張ってください」「このカードで、チェルノブイリの子ども達が少しでも幸せになれることを心から願います」等、様々な思いが添えられていました。

また、保育園、幼稚園、小学校、専門学校のクラス単位で協力して下さったところが数校あり、個人でも、幼児からお年寄りまで、広範なご協力をいただきました。

これら心づくしのカードが、チェルノブイリの子ども達に届き、彼らの心を少しでも暖め元気づけてくれることを願いながら、事務局では、ボランティアの女性を中心に発送へ向け作業を行いました。12月22日発送を完了し、年内に現地<移住基金委員会>に届き、小児病院や孤児院の子ども達に渡されました。

ご協力、心から感謝いたします。(山盛)

95 ミルクキャンペーンを終わって

あけましておめでとうございます。

みなさまにとってこの一年が素晴らしいものであることを願って止みません。また遠くで近いウクライナの人々にとっても輝くすてきな年の始まりであることを祈ります。

さて、昨年10/1から12/31にかけて呼びかけたミルクキャンペーンは

343件・1,613,382円 のご協力をいただき無事終了しました。

寒い不景気風が吹く中でのキャンペーンでしたから、この額はとても嬉しく心から感謝しています。ありがとうございました。普通の粉ミルクと共に、現地で多く見られるフェニルケトン尿症の赤ちゃんの為に薬用特種粉ミルク180缶も、今回初めて購入しました。これらのミルクは1月19日、ウクライナに向けて車椅子や医薬品とともに船便で発送しました。

原発事故＝核被害の真の恐ろしさがますますはっきりして来た今日、チェルノブイリの事故は過去のものではなく、ましてや他人事でもありません。現地の赤ちゃんやその親たちを思うとき、このキャンペーンの取り組みも、日々新たな気持ちで行いたいものです。ミルクキャンペーンは、毎年10月から12月の3カ月間行われています。この3カ月をより充実したものにするために、楽しくて効果的、誰でも参加でき輪がどんどん広がっていくグッドアイデアはありませんか？ぜひお寄せください。お待ちしております。

95 ミルクキャンペーン事務局

チェルノブイリ救援・浜松

高井 信行



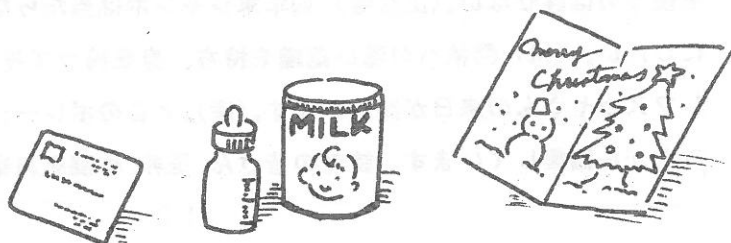
お知らせ

- ◇救援・中部オリジナルテレフォンカード 一枚 1,000円/50度数
- ◆『絵はがき集』 1セット5枚 300円 (子どもたちからとどいた手紙や絵)
- ◇『たった一回の原発事故で』 一冊 515円 + 送料 51円 (救援・中部編 地湧社)
- ◆『とどけウクライナへ～私たちの救援日記』 1,648円 (坂東弘美著 八月書館)
- ◇現地ジャーナリスト・ネチポレンコさんと小児科医・ライサさんの来日講演録
一部 350円 (専門家の解説付)

救援・中部までお申し込み下さい!

運営委員会報告・・・12/17 スイトピアセンター ひさびさに大垣での開催となりました。

- ★12/16星美小学校（静岡）でクリスマス会が開かれ、渡辺代表が出席。車椅子1台（アルミ缶700kg回収の成果）とプレゼント用のポシエットが贈られました。
- ★カードキャンペーン（10/1～12/10）マスコミに取り上げられた事もあって1082枚集まりました。また、国際児童画展「チェルノブイリの鐘」に星美小学校より125枚、個人から数枚の応募がありました。ポシエットと共に12月22日ジトミルへ発送しました。ご協力ありがとうございました。
- ★ミルクキャンペーン：静岡では、新聞に取り上げられてから、県内の問い合わせが増え、寄付もだいふ寄せられています。今回初めて送るフェニールケトン尿症の赤ちゃんの為に薬用粉ミルクは、既に180缶購入済みで、1月中旬粉ミルクと共に船便で発送する予定です。（詳細は別頁に）
- ★スタディツアー：第1回プレ企画講座（12/10）が開かれ、自己紹介について救援・中部の活動内容、現地の様子などの紹介がありました。今のところ、参加メンバーは12人です。まだ余裕がありますのでどんどんご応募下さい。（別頁参照）
- ★12月19日、日露医学交流財団の呼びかけによる、旧ソ連医療支援NGO連絡会が東京憲政会館で開かれました。渡辺代表が出席、全国の『チェルノブイリ救援』各グループ代表と交流しました。
- ★5年前に企画した『ハートもハートキャンペーン』で文通をしていたウクライナの人々が、チェルノブイリ事故から10年目の現在どのような思いで暮らしておられるのかを尋ねる手紙を出そうということになりました。チェルノブイリ被災者の「生の声」を聞こうという10周年企画のひとつです。
- ★『もんじゅ』の事故に抗議し、廃炉・閉鎖を求める為に、救援・中部として科学技術庁長官、動燃理事長、動燃もんじゅ建設所所長に意見書を提出することになりました。（別頁に掲載）
- ★2月10日、合宿を行います。場所は『熱田働く人の家』10時から17時まで。救援・中部の今後の活動はどうあるべき？救援とは？などについてじっくり話し合う予定です。



《 事務局日誌 》

11月12日(日) 救援中部・11月運営委員会。名古屋市女性会館にて

23日(水) カードキャンペーン作業。ボランティア 3名参加。

29日(水) 会計監査。(豊橋・田中)

12月2-3(土日) 国際交流フェスタ'95(名古屋国際会議場)に参加。

17日(日) 救援中部・12月運営委員会。大垣市スイトピアにて

19日(火) 渡辺代表が対旧ソ連、医療支援NGO連絡協議会出席。(東京憲政会館)

1996年

1月8日(月) 仕事始め。ニヤク・コーポレーションから寄贈された医薬品(ダンボール8個)をウクライナへ発送作業。

1月16日(火) ミルクキャンペーン粉ミルク荷造り作業。(名港海運にて)

19日(金) ウクライナへミルクを船便で発送。(名古屋港より)

21日(日) 救援中部・1月運営委員会。(岐阜市上宮寺にて)

不況の中でも、ウクライナに生まれ出た新しい命よ、すこやかにとの願いをこめて、ミルク代や救援金を送ってくださる方が、まだこんなに多くいる事に感激しています。私たちにまで、励ましのメッセージを書き送ってくださった方がた、本当にありがとうございました。

新聞に、カードやミルクキャンペーンの記事を書いてくださった記者の方。それを読んで、カンパを送ってくださった多くの方がた。匿名でカンパしてくださった方。皆様に心から御礼を申し上げます。
(事務局・松田 記)

あなたも維持会員になって下さい

チェルノブイリ救援の活動を続ける為に、事務局の維持費用が必要です。事務量が
増え、新しいスタッフも仲間入りしました。是非、事務局維持会員になって下さい。

☆維持会員会費 10,000 / 年 (または、1,000円/月)

(※通信欄に “維持会員費” と記入して、救援・中部の口座にご送金を。)

《編集後記》 9日は大雪で、その後一週間、雪とたたかいました。疲れた。(ひ)
⊙猛毒のプルトニウムを使う欠陥原発に、知恵の象徴である「もんじゅ」菩薩の名前を使うのは許せない。(上宮寺) 9年末ジャンボは当たらなかった。でも今年はいい年にしたい。(M) ⊙核への深い認識を持ち、身を持ってその恐ろしさを訴える、コバシフスカヤさんの来日が楽しみです。(幸) / このポレーシエは岐阜の女性たちが、悩みながら編集しています。読者の皆さん、是非、原稿をお寄せください。(み)